

設立から第4期めの2010年は、今後の展開の基盤となる地域内外との関係を深めた年となりました。地域内部にあっては、前年の2009年8月に岩見沢市に開設したワンストップ型拠点である**そらち炭鉱の記憶マネジメントセンター**の認知度が高まり、行政・学校・他団体などからの持ち込み企画や相談が多く寄せられるようになりました。また地域外部では、「炭鉄港2010-北の近代三都物語」の事務局として歴史的に縁の深い道央圏各都市との関係を構築し、センターでの展示を通じて九州との関係が強化できました。以下、各事業ごとに、2010年の活動についてご報告します。

[活動計画に対して：○=達成 △=途上 ×=未了]

#### ■出版事業

△『**空知産炭地域の炭鉱遺産市民活動(仮題)**』の刊行：これまでの取り組みや地域現状を概括的に解説する出版物は、NPO活動の広報や来訪者向け資料として期待され昨年からの懸案でしたが、他の業務が錯綜したため余力がなく刊行に至りませんでした。しかし、学術支援事業の一環として、札幌学院大学大学院地域社会マネジメント研究科からの依頼で作成した教材DVD「**地域活性化システム論①-空知産炭地域**」が、冊子の果たすべき機能を代替する形となりました。

#### ■炭鉱遺産事業

○「**その先マップ(まち歩きガイド)**」の作成：岩見沢市朝日・美流渡・万字地区のマップを作成し、エリア内にある宿泊施設で配布するとともに、現地ガイドの場で活用しました。また、赤平市では市民団体のコミュニティガイドクラブTANtanが同じ装丁でマップを作成し、これをもとに9月には空知振興局との共催で試行的なフットパスなど催事を展開しましたが、これら一連の動きを支援しました。

xiPodガイドシステムの本格運用：地域内の回遊促進のため本格運用を開始する予定でしたが、3本の素材(幌内×2本、北炭送電線×1本)は完成しているものの、課金システムの導入など新規公開方法の開発まで手がまわらず、運用に至りませんでした。

△**炭鉱遺産の保全・活用に向けた各地の取り組み支援**：住友赤平立坑の保存・活用について、地元団体と協議会を結成して体制を整え写真展など広報活動を行いました。その後の具体的な動きには結実しないまま推移しています。北炭幌内変電所については、登記上の所有者に対して施設譲渡に向けた交渉を開始しました。また、夕張市の石炭博物館の今後の展開についての協議会に参画し、その運営を支援しました。

#### ■学術支援事業

○**地域振興に資する学術研究の支援・連携**：空知産炭地域を研究フィールドとする旧産炭地域研究会(JAFCOF)が行っている住友赤平鉱エリアでの関係者インタビューなどモデル的な展開を支援するとともに、岩見沢市の朝日鉱に関する人材・資料の収集を行い新たな研究素材としての可能性を探りました。札幌学院大学では、法政大学など全国4大学で連携し地域活性化システム論の確立に取り組んでいますが、空知産炭地域の事例を格好の研究素材としてアピールしたことによって同大学院から多くの業務を受託し、当NPOは教材作成やフィールドワークで重要なパートを担いました。

○**基礎的な資料の収集**：マネジメントセンターの認知度が向上するにつれて、各所から書籍・資料・物品が集積するようになりました。寄託される資料の増加につれて、その整理方法が課題となりつつあり、現在、データベースシステムの構築を進めています。

#### ■市民団体連携事業

○**管内市民団体との関係強化**：4月には管内自治体・市民団体を対象とする「**初任者のため炭鉱講座**」を三日間にわたって連続開催し、延べ約100名の参加者があり盛況でした。美唄市

のNPOアルテピアッツァびばいとは、写真CDの制作支援や、共催による写真展の開催（8月）など、より密接な関係構築が図られつつあります。また、「炭鉄港2010-北の近代三都物語」の展開を契機として、炭鉱遺産市民活動団体だけではなく、アートやまちづくりなど他分野の団体との関係が次第に強化されつつあります。

- 国内外の炭鉱遺産関係者・団体へのアピールと受入対応**：地域内外からの多様な求めに対して、積極的に対応しました。特に、マネジメントセンターの催事と連動して、九州（三池・筑豊・薩摩）との関係が一層緊密化しました。

## ■拠点施設事業

- 補助事業の継続受託によるマネジメントセンターの運営**：国の「ふるさと雇用再生特別基金事業」に基づく空知振興局の補助事業を、本年も継続して受託し（2010年度受託額17,640千円）、昨年から継続雇用している4名の事務局員を中心にマネジメントセンターで活動を展開しました。

- 拠点機能の一層の強化**：前述した炭鉱遺産・学術支援・市民団体連携の三事業において、センターは拠点としての機能を十分に発揮し、対外的な認知度や信頼度が向上しました。このことは、来訪者数の増加として現れており、2010年の年間入場者数は3,396人（月平均283人）、9～12月の4ヶ月の入場者数では2009年654人であったのが2010年には1,332人に増加しています。また、センターのWebページの訪問者数は年間30千人、毎日更新のスタッフブログは年間43千ビューとなり、なおも増加の傾向にあります。

- △**収益力の具備に向けた取り組みの開始**：空知振興局の補助事業は2011年度で終了するため、その後のマネジメントセンターの維持に向けて、収益力を高めることが課題となっています。2010年は、マネジメントセンターが独自に、ツアー・物販・スペースレンタル・調査受託などで約1,500千円の収益を上げましたが、これは施設維持のための経費相当程度でしかなく、職員を雇用できるだけのボリュームには至っていないことが課題です。

## ■道央圏連携事業

- 小樽・室蘭・空知の3拠点を結ぶ関係性構築のための催事の開催**：北海道の近代化を支えた炭鉱を軸に、機能的な関係性のあった鉄道・港湾・鉄にもスポットを当て、その歴史性を発掘しアピールする連続催事キャンペーン「炭鉄港2010-北の近代三都物語」を、8月7日～11月3日の約三ヶ月にわたって、当NPOが事務局となり開催しました。準備時間が極めて少ない中での開催であったため運営上の課題は多くありましたが、延べ約10,000人が参加し、テーマ設定に対しては多方面から好評価を頂きました。フィナーレでは、各地から関係者約100名が札幌市に集まりワークショップを盛大に開催、次年度への取り組みの橋渡しを行うことができました。

## ■会務

- △**会員サービスの充実**：ニューズペーパー（No.5～No.6）、メールマガジン（No.10～No.14）、ホームページ（随時更新）によって、法人としての活動情報の発信に務めました。会員サービスとしての評価では、まだ改善余地が大きいと考えます。その代替として、マネジメントセンター職員が毎日交替で執筆するブログ、「炭鉄港2010」でのツイッターやUSTREAMでの映像中継など新たな広報手段を試行しました。会員に向けたスペシャル企画の展開が今後の課題です。

- △**理事会活動の活性化、事務局への的確な方針提示**：理事会活動の活性化を意図して、前回の改選で役員数を見直しましたが、昨年が続いて本年も改善の余地が大いにあったと反省しています。次期役員改選では、マネジメントセンターの一層の拠点性向上とともに、地域での活動展開のバランスを考えた布陣の必要性を実感しています。

**第2号議案** 2010年度収支決算報告、監査報告

**2010年 特定非営利活動に係る事業会計 財産目録**

2010年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	38,637	
普通預金 北洋銀行	2,183,523	
普通預金 空知信用金庫	8	
普通預金 北海道労働金庫	1,011	
郵便振替口座	3,000	
現金・預金小計	2,226,179	
流動資産合計		2,226,179
2 固定資産		
敷金 [マネジメントセンター]	50,000	
固定資産合計		50,000
資産合計		<u>2,276,179</u>
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金 [社会保険料]	103,129	
流動負債合計		103,129
2 固定負債		
固定負債合計	0	0
負債合計		<u>103,129</u>
正味財産		<u>2,173,050</u>

**2010年 その他事業会計 財産目録**

2010年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

該当事項なし

2010年 特定非営利活動に係る事業会計 貸借対照表

2010年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

単位：円

科 目	金 額	
I 資産の部		
1 流動資産		
現金	38,637	
普通預金 北洋銀行	2,183,523	
普通預金 空知信用金庫	8	
普通預金 北海道労働金庫	1,011	
郵便振替口座	3,000	
現金・預金小計	2,226,179	
流動資産合計		2,226,179
2 固定資産		
敷金 [マネジメントセンター]	50,000	
固定資産合計		50,000
資産合計		<u>2,276,179</u>
II 負債の部		
1 流動負債		
預り金 [社会保険料]	103,129	
流動負債合計		103,129
2 固定負債		
固定負債合計	0	0
負債合計		<u>103,129</u>
III 正味財産の部		
1 前期繰越正味財産		524,625
2 当期正味財産増加額		1,648,425
正味財産合計		<u>2,173,050</u>
負債および正味財産		<u><u>2,276,179</u></u>

2010年 その他事業会計 貸借対照表

2010年12月31日現在

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

該当事項なし

**2010年 特定非営利活動に係る事業会計 収支計算書**

2010年 1月 1日～2010年12月31日

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

単位：円

科 目		金 額	
<b>I 経常収支の部</b>			
1 経常収支の部			
【経常収入】			
会費収入	937,000		
事業収入	5,033,493		
寄付金収入	113,000		
補助金収入	19,410,968		
助成金収入	0		
受取利息収入	395		
経常収入合計		25,494,856	
【事業費支出】			
出版事業	162,450		
炭鉱遺産保全活用事業	320,685		
学術支援事業	1,256,913		
市民団体連携事業	673,755		
拠点施設運営事業	16,291,043		
道央圏域連携事業	1,717,678		
事業費支出合計		20,422,524	
【管理費支出】			
給料手当	3,000,000		
通信費	16,276		
旅費交通費	300,360		
旅費日当	5,000		
会議費	11,592		
消耗品費	3,373		
保険料	15,941		
租税公課	62,000		
支払手数料	3,465		
雑費	5,900		
管理費支出合計		3,423,907	
経常収支差額			1,648,425
2 その他資金収支の部			
その他資金収入		0	
その他資金支出		0	
その他資金収支合計			0
当期収支差額			1,648,425
前期繰越収支差額			474,625
次期繰越収支差額			2,123,050
<b>II 正味財産増減の部</b>			
1 正味財産増加の部			
当期収支差額		1,648,425	
正味財産増加合計		1,648,425	
2 正味財産減少の部			
正味財産減少合計		0	
当期正味財産増加額			1,648,425
前期繰越正味財産額			524,625
当期正味財産合計			2,173,050

**2010年その他事業会計 収支計算書**

2010年 1月 1日～2010年12月31日

特定非営利活動法人炭鉱の記憶推進事業団

該当事項なし